



ワンオペ育児

近年、飲食チェーンなど、深夜の一人だけの過酷な労働状況を「ワンオペ」と表現され、以降、「ワンオペ育児」「ワンオペ介護」などという言葉もよく耳にするようになりました。

生物学者で学生時代に起業、「こども未来戦略会議」に赤ちゃん連れて官邸に出席して話題になった高橋祥子さんは、育児について次のように語っています。

「人間の育児はワンオペに向いていない」。自身、出産して驚いたのは、赤ん坊の弱さだったそうです。食料を探して食べることも、危険から逃れることもできない。「こんな弱い哺乳類は、ほぼいない」とのことで、よく人類が増えたなというのが、生物学者としての感想でした。よほどがんばって育てなければ、すぐに絶滅する生き物なのだとということを実感したそうです。

にもかかわらず、ヒトが人口を増やせたのは、集団で育児をしてきたからだと言っています。弱い状態で生み、ゆっくり育てる環境を整えた結果、ヒトは脳の発達に15年もかけられるようになり、知性を伸ばすことができました。ただし、そのためには人間の育児は集団生活が大前提であったということなのです。

現在の少子化の問題は、育児家庭の核家族化、世代全般の一人暮らしの増大という社会環境によるところが大ということなのでしょう。男女共同参画局の世帯構成調査によると、三世代世帯構成は1980年全体の19.9%だったのに対し、2015年には9.5%になり、これに対し独身世帯構成は1980年19.8%だったのが、2015年、34.5%、2040年には39.3%になると予測しています。

その昔、江戸時代、未婚率は低くなく、皆婚社会になったのは戦後の高度成長時代だそうです。女性の社会進出が進む中で、育児は夫婦だけの問題ではなく、多様性に富んだ家族のあり方や手を差し伸べられる社会のあり様が問われているといえるでしょう。

第一創建株式会社

代表取締役社長 田中慶太

